憲法九条は地球の宝物

――川崎市「宮前九条の会」の集会での講演――

小山内美江子

去る2月4日、川崎市宮前区市民館で開かれた「憲法九条を守ろう！宮前区市民のつどい」（宮前9条の会主催）での講演要旨です。同会と小山内さんの承諾を得て掲載します。

私は、むずかしい話はできません。一人の母親、脚本家として、そして紛争地域に行ってそこの子供たちのための学校を作る運動のメンバーとして、考えていることを聞いて頂ければと思います。

■人殺しより平和ボケの方がまし■

まず私は、日本に軍隊はいらないと思っています。いま防衛庁を防衛省にしようとしていますが、そんな必要はありません。省にすれば人数もふえるし、余計なお金もかかります。私たちが一所懸命働いて納めた税金が使われるんですから。

年配の方ならご存じでしょうが、花森安治という方がおられました。この方は言葉の天才、今でいうコピーライターですね。戦争中に大政翼賛会で宣伝の仕事をされ、「欲しがりません勝つまでは」という標語を創った。戦後、そうした戦争協力を反省して、人びとの生活に密着した雑誌『暮らしの手帖』を創刊しました。どこの企業からも広告をとらない、本当にユニークな雑誌でした。この花森さんが晩年、親しい方にこう言われたそうです。

「だいたい、武器があるから人間は戦争するんだ。そんなものは全部集めて海に沈めてしまえばいい。そこに島ができたら、皆で弁当を持ってピクニックに行こう」私がこんな話をすると、必ず誰かが「お前は平和ボケだ」と言うんです。でも人殺しより平和ボケの方がずっとましだと思うんですけどね。「武器も持たないで、敵が攻めて来たらどうする」って、一種の脅迫ですね。しかし敵とは何でしょう。東西冷戦が終っても、敵を作らないとやっていけない企業があるということなんじゃないでしょうか。

この頃はアメリカでも中国脅威論が盛んだし、日本でも靖国問題などから中国との関係が怪しくなっている。「非武装中立などと言って、やられっ放しでいいのか」なんて言われるとだんだん心細くなって来る。もちろん、やられっ放しでいいとは言えません。まずやられない方法を考える、それは平和外交です。それを進めるには私たち一人一人がしっかりした考えと覚悟を持たなければなりません。

でも、戦争になってしまったら、武器を持っていようがいまいが、とても全員が生き残れるものではないんです。

私が書いたNHKの大河ドラマ『翔ぶが如く』の原作者司馬遼太郎さんは、戦争末期、戦車隊の兵隊さんでした。米軍の本土上陸に備えて、九十九里浜に布陣していた。上官から、敵の艦砲射撃が始まったらすぐ後退せよと言われたそうです。でもその時は避難する人びとで道が塞がっている、どうしたらいいですかと訊いたら、「踏み潰せ」と言われた。司馬さんは、「国というものは人がいて成り立っているのに、その人のことを考えない」と書いておられます。

■ガンジーとキング牧師の闘い■

ちょっとぐらい武力で戦ってもやられる時はやられる。それぐらいなら、いっそ無抵抗（非暴力抵抗）でいったらどうか。歴史にはすばらしい前例があります。

インドにはガンジーという人がいました。ガンジーはそれこそやられっ放しにやられるんですが、それでも信念を変えなかったために、インドは最後にイギリスから独立できたわけです。このガンジーを尊敬して、そのやり方を学んだのがアメリカのキング牧師の黒人解放運動。その当時黒人は本当に人間扱いされていなかったんですね。バスに乗っても自由に座れない。そういうバスをボイコットする運動から始まって、ついにはワシントンで百万人の大集会を開くところまでゆく。時の政府もこれは大変なことだと認識して、黒人に選挙権を与える。ついこの間のことです。ついこの間まで、黒人には選挙権がなかったんですよ。このキング牧師にしても、ガンジーにしても、「あきらめたら負けだ」と言っています。いま「九条が危ない」と言われていますが、私たちもあきらめてはいけないんです。九条は私たちの宝なんだ、戦争はいやだと叫び続けなければなりません。

私はコートのここにブローチみたいにバッジをつけています。「九条実現」と書いてある。コートを脱ぐと上着にもう一つついています。電車に乗る時はちょっと恥ずかしいけど、他の人もつけていれば、「あら貴女も仲間なのね」「同じこと考えているのね」と笑い合えます。これと同じシールもできたので、お手紙出す時べたっと貼ろうと思っています。

■五九年前の約束■

ここにこういう小冊子があります。憲法普及会編「新しい憲法　明るい生活」。「大切に保存して、大勢で回し読みして下さい」と書いてある。昭和二二年、今から五九年前に出たものですね。会長の芦田均という有名な政治家で、首相も務めた方が「発刊のことば」というのを書いています。「もう戦争はしない。これは新憲法の最も大きな特色であり、これほどはっきり平和主義を明らかにした憲法は世界に例がない。」その通りです。「私たちは戦争のない、本当に平和な世界を作りたい。」これを、日本の保守党のお偉い人が言ってる、今だったら小泉さんでなくとも、森さんぐらいの人が言ってるわけですね。「このために、私たちは陸海軍などの軍備を振り捨てて、全く裸身となって平和を守ることを世界に向かって約束したのです。」そうなのです、約束したんですよ私たちは。「政治の実権を握っていた者たちが国民生活を犠牲にして軍備を大きくし、ついに太平洋戦争のような無謀な戦いを挑んだ。その結果は世界の平和と文化を破壊するのみだった。しかし敗戦は、私たちを正しい道へ案内してくれる機会となった。」「私たちは世界にさきがけて戦争をしないという大きな理想を掲げこれを忠実に実行すると共に、戦争のない世界を作り上げるためにあらゆる努力をしましょう。これが新日本の理想であり、私たちの誓いでなければなりません」と、今から五九年前に誓った。当時私は一七歳でした。私たちは自分が親になったら子供たちにこうした誓いを伝えなければいけなかったんですが、あの頃は毎日食べていくだけでも大変だったので全部お任せするようなところがあって、気がついたらいつの間にか全然違うことになってしまったと思います。

ですから、気がついた時、同じ思いの人びとがこうして九条の会を作ってゆくのはとても大切なことです。私はいろんな九条の会に入っています。映画人九条の会、横浜九条の会、母親たちの九条の会、静岡、熱海、下諏訪、女たちの九条の会。こういうものはウイルスのようにどんどん増やした方がいいですね。1月

末までに、日本全国で四〇七九の九条の会が名乗りをあげたそうです。

■海外で知った憲法9条の価値■

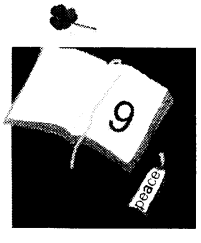
一九九〇年八月、イラクのフセインがクウェートに武力侵攻しました。いわゆる湾岸危機ですね。今のブッシュのお父さんのブッシュ大統領が先頭に立って、イギリス、フランスなども加わって多国籍軍というのを作って出兵しました。この時日本とドイツは出兵しませんでした。日本の自衛隊は軍隊じゃないということになっていて、法律上海外の戦争には出せなかった。人の代りに一三〇億ドルというお金を出した。それでも「日本は血も汗も流さない」と言われました。「顔の見えない日本人」とかね。たまたまその頃、私はNHKの大河ドラマを書き終えたばかり、少し前には母親も亡くなり、子供も独立していた。これからは自分の時間とお金は自分のために使おうと思っていた矢先だったので、「こんな顔でよかったら日本人の顔を見てもらおうじゃない」と思い立って、ヨルダンの難民キャンプに行ったんです。ここで私たちを警護してくれたヨルダンのミリタリーポリスたちが、皆エリートで英語もしゃべるんですが、口々に言うんです。「お前たちの国はいいな。何といっても戦争をしちゃいけないという憲法を持っているんだから。」「軍備に使うお金を経済に回したからあんなに豊かになったんだ。羨しいよ。」

九一年、イラン領に逃げたクルド人難民支援に行った時にも同じようなことを言われました。一緒に行った日本人の学生がつくづく「日本て本当にいい国だったんですね」と言う。飲み水ひとつにしても、服装や言論の自由にしても、日本では彼らが当り前と思っていたことがそうじゃないと初めて分るんですね。九四年には旧ユーゴ難民の支援にクロアチアに行きました。難民の学生と日本の学生が下手な英語で話し合ったんですが、向こうは皆二六歳とか二七歳です。すると日本の学生が訊いたんです。「貴方たちはどうしてそんなに年齢が高いのか」私はテーブルの下でその子の足を蹴飛ばしてやろうかと思いましたよ。「我々には徴兵制度があるからです。」「軍隊ではどんなことを？」「兵士としてやることは何でも。」

つまり戦争ですよね。その学生は額に残る傷跡を見せてくれました。そこで日本の学生は初めて、自分たちがいかに恵まれているかを実感したと言っていました。

こうしたことすべてが、私は憲法九条に関わっているんだと思います。どこへ行っても、憲法九条は人類の宝だと話していきたい、いろんな国にこれを輸出していきたいと思います。一緒にがんばりましょう。

（おさない・みえこ、脚本家、JHP＝カンボジアの子供のために学校を建てる会代表）



一聴衆（本会会員）からの報告

二月四日は寒風が身にしみる夜でしたが、会場の宮前市民ホールには五〇〇人を越える市民がつめかけました。腹話術師しろたにまさるさんの軽妙な司会のもと、地元在住の青年や子供たちによる和太鼓、俳優三谷昇さんによる詩の朗読など、地域の集会らしい和やかな雰囲気でした。ドラマ「3年B組金八先生」などでおなじみの小山内美江子さんの講演は、生活感とヴォランティア体験に基く説得力に溢れていました。お話の中で私たちの九条バッジとシールについても触れて下さったので、ロビーでは私が持っていったバッジとシールがあっという間に売り切れてしまいました。（M）